

1. そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。「先生。いつここにおいでになりましたか。」(6:25)
  - a. 多くの奇蹟を見、イエスをむりやり王としようとした(15節)にもかかわらず、群衆はイエスがメシヤだと確信できなかった。むしろ、まだ先生(ラビ)と呼んでいた。
  - b. イエスをラビだとみなすのは間違いではないが、イエスのご自身がどのようなお方なのかを人々がもう理解しても良い時期だろうと期待されていた。イエスはただの預言者やラビではなく神の子であるが、人々は彼に信仰をおかなくなる(42、66節)。
  
2. イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を父すなわち神が認証されたからです。」(6:26-27)
  - a. イエスは彼らの愚かさを指摘する。彼らはイエスがメシヤなので求めていたわけではなく、もっと表面的な理由で捜していた。
  - b. 今の時代でもイエスに従うことの表面的な利益だけを強調して大衆に呼びかける福音が語られているし、今後もそれは続くであろう。
  - c. 失せてしまうものを強調するメッセージにも気を付けなければならない。そのようなメッセージは肉には訴えかけるが永遠のいのちに耐え得るものではない。なくなるものを強調する福音は父なる神が認証するものではない。
  
3. すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。」イエスは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。」(6:28-29)
  - a. 神が私たち側に求めるわざはあまりにもシンプルである。ただイエスを信じること、それだけである。しかし、それほどシンプルであるにもかかわらず、この大衆は信じず、イエスから離れていった。
  - b. ここで問われることは、私たちもイエスを信じていると言っているが、ではイエスは今あなたをどこに導かれているだろうか。私たちがイエスにおく信仰とは、ただイエスが行われた歴史的な出来事を信じたという過去形ではなく、つねに現在形でなくてはならない。
  
4. そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。」(6:30-31)
  - a. ここでもまた、弟子たちがイエスに従った本当の理由が明らかにされる。彼らはまた食べさせてほしいと言っている。まだパンをほしいと言っているが、もしイエスがぶどう酒を出してくださるならそれもほしいと言うに違いない。
  - b. イエスは彼らのためにそのようなしるしを行いたくないわけではないが、それを続けてしまうと彼らの霊的成長を弱めてしまうことになる。出エジプト記で神の子らが神に信頼しきれなかったため荒野をさまよったのと同様である。私たちも同じ間違いを犯さないようにしたい。気を付けるべきことは、教会を転々と変えること、常に文句を言うこと、何がもらえるか期待すること、神に対してどのような態度をとるか、などである。
  
5. イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」(6:32-33)
  - a. もしあなたが霊的成長に困難を覚えていたら、もしかすると完全にイエスのもとに来て信じていないからかもしれない。
  - b. イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」(35節)
  - c. イエスは私たちを満たしてくださるだけでなく、終わりの日とともに引き上げてくださる。その日に満たしのしるしが完全に成就するのである。